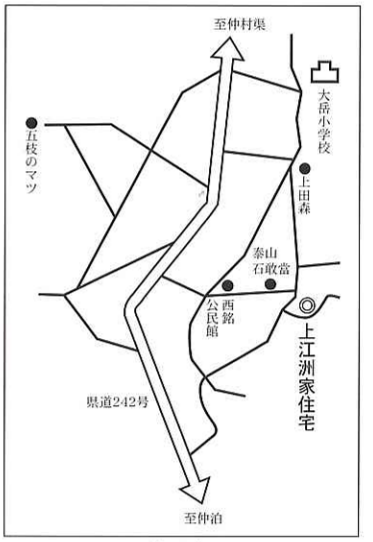
上江洲家住宅

指定名称　上江洲家住宅（うえずけじゅうたく）
（国指定重要文化財建造物）
員　　数　２棟
所 在 地　久米島町字西銘816
指定年月日　昭和47年５月15日
所 有 者　上江洲　彌　生



上江洲家は、代々具志川間切の地頭代を勤める要職にあった。現在の建物は乾隆（けんりゅう）19年（1754）、７代智英によって建築されたと記録にあるが、新築当時は母屋と下屋が隣接して建てられていた。その後雨端（あまはじ）瓦葺きとなり、明治24年（1891）下屋改築の際に住宅と下屋を接続し、総瓦葺（かわらぶ）きに改めた。現在の建物は当初の建築であるが、平成４年度から平成６年度までの継続事業として、住宅や石牆（せきしょう）などの半解体修理が行われた。

屋敷の周辺は立派な石垣で囲われており、「石垣殿内（どぅんち）」と呼ばれるゆえんである。南向きに開いた表門を通ると石牆のひんぷんがあり、北側及び石垣の東西を福木（ふくぎ）林に囲まれ、琉球王国時代の風水思想に基づいた民家の屋敷構えを今も残している。建物は木造平家建てであるが、茅葺きから雨端瓦ぶき、総瓦葺となり、よくその変遷を伝えている。